



2021年11月号 No.376

2021年11月号 No.376

表紙 仏花

石川 真樹 [茨城 1組 福法寺]

花材
五葉松、ストレチア、大輪菊、
菊、小菊、赤目柳、
ドライバンバスグラス



Shinran
S50th
S800th

— 2023年 宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年 慶讃テーマ —

 南無阿弥陀仏
人と生まれたことの意味をたずねていこう

東京教区教化委員会報 ネットワークナイン

発行日 2021年11月1日

編集 教化委員会広報・出版部門

『ネットワークナイン』班 編集員

総編集長：本田 彰一（東京1）
チーフ：中村 晃（茨城1）
佐々木誠信（東京4）朝倉 俊隆（東京5）五島 大地（東京8）大山 信敬（茨城2）
チーフ：田上 翼（茨城1）
坂東 性悦（東京2）平松 正宣（東京3）櫻田 純（東京6）秦 顯生（湘南）
チーフ：田宮 真人（東京8）
内藤 友樹（東京1）渡邊 尚康（東京3）相馬 法道（茨城1）鞠川 卓史（湘南）

発行 真宗大谷派東京教区教化委員会

〒177-0032 練馬区谷原1-3-7東本願寺真宗会館

TEL. 03-5393-0810 FAX. 03-5393-0814 Email. nw9@ji-n.net

ご意見、ご感想は上記連絡先までお願いします。

もくじ

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃事業

-
- 03 みんなで付けよう「慶讃バンド」

特集 教区同朋会議

欲望全開の商品経済社会に於ける

-
- 05 真宗同朋会運動 林 憲淳

-
- 15 法語ポスター

教区教化通信 総合調整総務会

-
- 18 教区報恩講 企画会だより 原 知克

教区教化通信 研修部門

-
- 20 聖典学習会 講義ノート

教区教化通信 教学館

-
- 22 私の出遇った言葉 内藤 望

はい！こちら真宗会館です

-
- 24 駐在日記 渡邊 誉

はい！こちら真宗会館です

-
- 25 所員のつぶやき 小松 宏耀

-
- 27 敬弔・涌 田上 翼



—(2023年 宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年 慶讃テーマ)—

南無阿弥陀仏

人と生まれたことの意味をたずねていこう

みんなで付けよう!! 「慶讃バンド」

東京教区慶讃事業推進委員会「広報部会」におきまして慶讃法要への機運を盛り上げるべく「慶讃バンド」を作成いたしました。

この「慶讃バンド」は、僧侶は輪袈裟、暦袈裟に、坊守は坊守章に、門徒は肩衣に付けていただき、①身に着けた者自らが、慶讃テーマとその願いを確かめる機縁とし、②身に着けることによって、僧侶・寺族・門徒、また社会に対し、慶讃テーマとその願いの周知を図ること趣旨としています。

この「慶讃バンド」の名称につきましては、輪袈裟や肩衣に巻き付けていただく「バンド(帯)」という意味と、慶讃法要を一緒にお勤めする「バンド(楽団)＝同朋」という願いを込めました。

このたび、東京教区慶讃事業推進委員会の

承認を受け、東京教区に限らず全国の寺院・教会に対しての「慶讃バンド」の配布も決定いたしました。まずはご自身がお付けいただき、さらにはご縁ある方にお付けいただき、「ご」獎励をお願いいたします。

「慶讃バンド」のPDFデータは東京教区ホームページよりダウンロードできます。どうぞご活用ください。

最後に、より一層の周知に資するため、慶讃バンドや着用している写真等を、「#慶讃バンド」を付けてSNSへ投稿をお願いいたします。



東京教区ホームページ
「慶讃」
→マーク→マーク→マーク



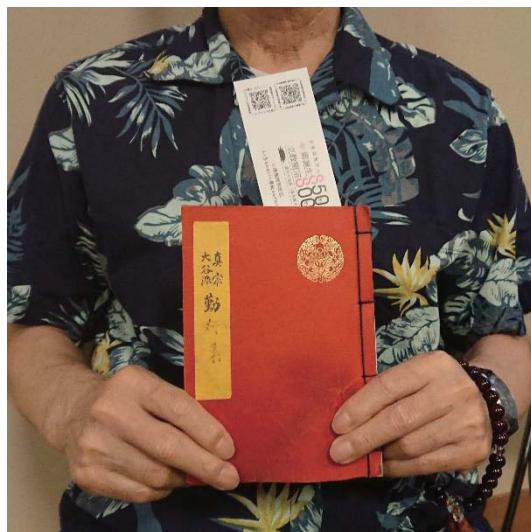
1シート(A4)で7色7枚のバンドがとれます



→表紙
（148.5mm×52.5mm）



→裏表紙
（148.5mm×52.5mm）



→門徒は肩衣に着用ください



→お茶菓子に巻き付けてみたり



今後の慶讃事業予定

→東京教区500カ寺をつなぐオンラインお待ち受け大会

【期日】2022年6月13日（月）13時30分～

【開催方法】YouTubeでのライブ配信

【講師】池田勇諦氏（三重県桑名市 西恩寺 前住職
眞宗大谷派学階「講師」／同志大学名誉教授）

※内容につきましては、あらためてご案内いたします。

慶讃バンドを付けたら、ハッシュタグ「#慶讃バンド」を付けてSNSに投稿してください。

他にも「慶讃バンド」の活用方法がございましたら、東京教務所までお寄せください。

2021年度東京教区同朋会議講話

特集

欲望全開の商品経済社会に 於ける真宗同朋会運動

講述：大垣教区・林 憲淳 氏



去る5月18日、東京教区同朋会議が行なわれました。新型コロナウイルス感染症対策のため、真宗会館からオンライン配信し、各組で設けられた会場・または個人による視聴での開催となりました。

同朋会議では、大垣教区・林憲淳先生に、これまで同朋会運動に関わってこれまでご経験を元に、これから東京教区の教化活動についていくつもの提言を頂きました。

今回の特集では、その講話を掲載させていただきます。「同朋会運動はまず自分のところに一度受け取つて、どのような課題をひらいていくのか確認すること」と、講義の中で林先生がおっしゃいました。改めて今号特集を皆様の同朋会運動の課題を確認する機縁としていただければ幸いでございます。（担当：田上班）



オンラインで講話をされる
林憲淳 氏
(大垣教区 寶光寺 住職)

まれた」との意味をたずねていこう

新型コロナウイルスの現状のみならず、現代は人が生きづらさを強く感じる時代となっています。どこに私の居場所があるのか、私の安心できる場所はどこにあるのか。そのような迷いのなかで、南無阿弥陀仏の念仏と共にある私というふことをテーマは呼びかけています。先行きの見えない時代ですが、人と生まれたことの意味をたずね続ける歩みを踏み出したいと思います。(同朋会議の案内文より抜粋)

ご紹介頂きました大垣教区の林です。このたび、東京教区の大事な同朋会議に参加させて頂きましてありがとうございます。これから東京教区が将来的に教区教化を進めていく時にどういう課題があるかということを、他教区の視点で提案せよということで、短い時間ではございますけれどもお伝えしたいと思います。

初めに開催要項を少し確認してみたいと思います。

教区教化テーマ「南無阿弥陀仏人と生

このように問題提起を頂いておりまして、

私としては、自分のところから始めなければならぬと思いました。同朋会運動はまず自分のところに一度受け取つて、どうしていくのか、どのような課題をひらいていくのかと確認されることが大事だと思います。

私が同朋会運動に参加しましたのは19

65(昭和40)年であります。本山の同朋会館がちようじ倍の大きさに増築された時に、本山研修部に奉職いたしまして、そこで同朋会運動にふれさせて頂きました。研修部に入部するまでに、多くの諸先生方、先輩方に遇えたことが、ありがたかつたと今さら

ながらに思います。本当に多くの人々に会って、お勧め頂いて、やっと浄土真宗の歩みを細々と始めさせて頂きました。

具体的に申しますと、私の寺の近くに同朋

会館での研修部長をしておられました柘植^{せきしょく}英先生^{えいせい}という方がおられまして、その先生のお勧めがやはり大きかったかと思います。

同朋会運動の人材養成の研修として、伝導研修会(伝研)があり、寺族、特に若手の方々を中心に研修を受けてもらうということでした。この伝導研修会に参加するように勧められたのが大きなきっかけになつたと思ひます。

私たちはどこかで念仏の教えに出会つていくチャンスがあると思います。そのお念仏の教えに出会うチャンスをひらいてくれるのが宗門だと思うのです。当時、私は宗門外の他の仕事に勤めておりましたが、その研修会に参加することを縁に、柘植先生から、本山で勤めよ、ということを言われまして、本山に奉職したのが同朋会運動に関わるきっかけであり、また念仏の教えを頂いていく

うという契機があつたことを改めて思う 것입니다。今、そういう研修は、どのように形で行われているのでしょうか。たぶん教

学研究所で実施されています研修はそういうことを願つておられるのではないかと思います。そういう人材養成の場を大事にしていくことが大切だと思います。

私は本山に入るまで、同朋会運動を知りませんでした。当時、とにかく忙しく、活発でありました。同朋会館が昭和40年になぜ倍に増築されたかといいますと、以前の同朋会館では、奉仕団の参加者の上山数に対応できなかつたからです。食事は一回に分けていただき、満員で、又当時は役職者の指定研修よりも、一般奉仕団がほとんどでした。

今、同朋会館で一般奉仕団の割合はどのくらいでありますか。各寺から御門徒を誘つて上山して、そこで御門徒と共に寝食を共にして学ぶということが、どれくらいの割合であるのでしょうか。このことが、やはり危惧されることであります。本山の奉仕を通して各寺に同朋会、聞法の会を開いていくといふことが、私が同朋会運動というものに関わらせてもらつて、経験したことであります。

同朋会運動がなぜ開かれたかといいますと、1962（昭和37）年の議会によつて訓
霸信雄
總長から施策が発表されました。その時に言われたことですが、家族制度を根にし

た門徒制度が大きく崩壊に向かうということ、そして人口の移動による過疎化に関連していました。地方から東京へという流れであります。地方から東京へ行かれた方が今どのような状況になつてゐるかということもきちんと確認することも大事だと思いました。

多くの方が「門徒離れ」をし、背景には創価学会等の新興宗教の急速な台頭もあり、お仏壇が捨てられていくことが起きました。そのようなことをきっかけとして、同朋会運動が開かれるわけです。同じように当時の西本願寺が始められた門信徒会運動と比べていくのも、これから計画を立てる上で大事ではないかと改めて思います。

それともう一つ、勤め始めてどのくらいでしようか、昭和40年代後半頃に私は自分で話を聞くだけではいけないと思って、自分の寺で同朋会を作ろうと思いました。私のお寺は京都から近い、岐阜県・大垣教区ですから、毎週帰りまして自分の寺で同朋会を開きました。私が学ぶということを縁として自分の身近にいる門徒の方、特に同年代の方と語らう場所を開きました。必ずしも内容的に成功しているとは言えません。ましてや私は今歳をとつてきておりますから、これから新しく何かするということはとても無理かと思ひます。しかし、今まで自坊の同朋会の方々と共に歩むことにより育てられたというこ



現在の同朋会館（入り口）

教化の在り方

先ほど先輩方、先生方にお育ていただいたということを申し上げました。というのも当時は京都に在住していたおかげで月1回枳殻邸で安田先生の講義『成唯識論』があり、同朋会館では補導を中心とした仲野先生の『十地經論』の勉強会が毎週ありました。今はそういう場が本当にあるのかどうか、宗務に関わらせてもらうことは、自身を養育されることでもあると思います。

それともう一つ、勤め始めてどのくらいで話を聞くだけではいけないと思って、自分の寺で同朋会を作ろうと思いました。私のお寺は京都から近い、岐阜県・大垣教区ですから、毎週帰りまして自分の寺で同朋会を開きました。私が学ぶということを縁として自分の身近にいる門徒の方、特に同年代の方と語らう場所を開きました。必ずしも内容的に成功しているとは言えません。ましてや私は今歳をとつてきておりますから、これから新しく何かするということはとても無理かと思ひます。しかし、今まで自坊の同朋会の方々と共に歩むことにより育てられたというこ

とは、非常にありがたかったと思ひます。

東京教区に関わらせて頂いたのは、それ以降になります。最初は、1996年から1997年の三浦組での推進員養成講座でありました。今までのしがらみがない、初めて仏法に出会うという方が多く、非常に私も勉強になりました。東京はいいなと思いました。後に千葉組にも参加させていただきました。ここではまた違った人に出会って、千葉組の場合は研修会が終わりますと宴会がありますて、そこで門徒の方と話しかけたのが本当におもしろかった思い出があります。

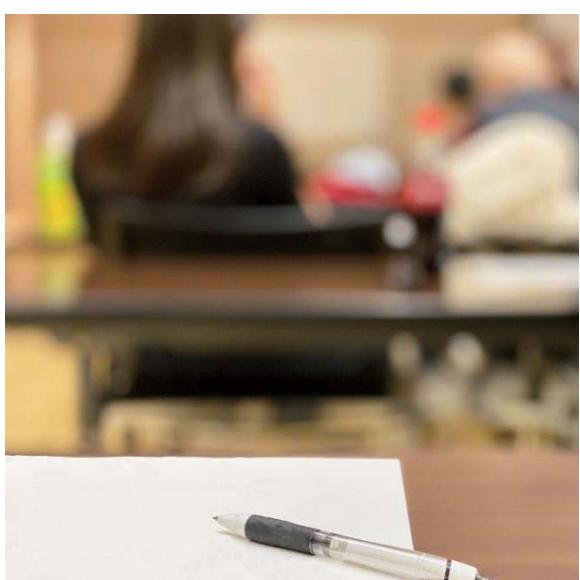
また、自坊のご門徒の葬儀を日黒駅の近くのお寺でさせていただいたことがあります。地方から来たおばあちゃん達と一緒に「正信偈」を読みましたら、若い大学生くらいの方々が、たまにしか会わない者同士で、何故、お勤めをバツと合わせることができるのかと感動されていました。私たちは「正信偈」を当たり前に読んでいますが違うのだなど、儀式の大切さを改めて思つた事があります。東京教区は非常に広く、各組において全く状況が違うのですね。

一度、長野県塩尻市で仏教会の講演会に寄せて頂きました。あの近くはほとんど禅宗の

お寺で真宗のお寺が少ないので、禅宗のお坊さんばかりの場でお話させて頂いたことも思い出します。そういうことを考えると、私たちがもう一度考へなければならぬことは教化の範囲です。「教化ユニット」と言い換えてみるとどうでしょうか。「組」「教区」といっていますけれど、教化の場というのをどのように考へていますか。昔からある形をそのまま確認せずにいるのではないかと思います。今は教区が合併していくという動きがありますけれども、教化の場に関するいえば、もう少しきめ細やかな場が必要ではないでしようか。東京教区だけでもとても広いし、そこで教化しようとすると場合、一斉に上から下へというわけにはいきません。教化のユニットと手順が考えられる必要があるのではないかと思います。

これは非常に難しいですけれど、一番良いのは中学校下にひとつのお寺ができることです。同朋会運動というのは一力寺に一つできるのが理想ですが、とても今その力がございません。中学校下が無理ならば、地域で一番集まりやすい場所にひとつの教化体を作つて、そこで親鸞聖人の教えを聞く場所を開いていくべきでしよう。東京でひらくれてあり、都市化現象と少子化がそこに拍車を

いる親鸞講座のようなものでございましょうか。「組」というものが中心になつて共同教化を計画していくこと、これも大事ではないかと改めて思います。



全くが商品化される現代

私たちが今抱えているお寺の現況が非常に深刻なところにあります。1962（昭和37）年に同朋会運動が発足した時には、門徒離れしていくことが大きな課題としてあり、都市化現象と少子化がそこに拍車を

かけているということがありました。今現在

は、門徒離れがより進み、お寺が潰れていくという状況があります。少し前まではお寺の後継がいないとなれば、地域でそのお寺をお守りして、新しい住職を探してお願いしていくということがありました。今は不可能であります。多くのお寺が無くなっていく。コロナの問題はこれを早めただけで、一昨年くらいから深刻に進んでいたと思います。私の周りでも後の存続が危ないというお寺が数カ寺あります。他所だけでなく、私自身のお寺も、今後どうなるかわからないという状況にあります。そして、それをサポートするものはほとんどありません。もう潰れていくのを待つだけという状況になるのではないでしょか。

その中身は、家を継ぐ人がなく、『門徒がなくなっていく』こともあります。が、生活の在り方が全く変わってきたということです。その原因としては商品経済社会・資本主義社会ということがあります。貨幣に価値を置いて全てのものを決めていく。お金が全知全能の神のように働いていく。貨幣価値に代えられないものは何もない。全国津々浦々に至るまでマーケットになってしまってい

ます。

一言で言えば人間も物化されているということです。それを商品化されていると言つたらどうでしょうか。お寺もそこから逃れることはできません。全てが商品化されます。真宗大谷派の機構の中でも商品化されないものはほんの一部です。後は全部商品化されます。それは止めようのない流れであります。これからどんどん進んでいくのだと思ひます。私はこれを曇鸞大師の「五濁の世、無仏の時」ということと合わせて考えてみたいわけであります。一生懸命やつていく人間社会の歩みが、いつの間にか物化し、商品化し、全てが貨幣価値によって決められていくという社会です。

ここでお寺の状況を少しお考えいただきたいと思います。大垣教区は約400カ寺くらいありますが、一つは葬儀の形が変わってきましたということがあります。また、私の所は岐阜県の西方で、美濃^{みの}地方ですけれども、これまでご法事は五十回忌まで皆さん勤められていましたが、今そこまでされるところは少なくなりました。五十回忌を過ぎますと、私のところではこれを「取り上げ」といいます。

ういうような形であつたものが、どんどん簡略化され今のところ多くは十三回忌までぐらになりました。東京はいかがでございましょうか。法事がかくの如くでありますから、葬儀の形態も変わってきております。

昔は、私のところですと必ず「三人の僧侶を法^{はつ}中^{ちゆう}として招いて葬儀が勤められたものでけれど、今はほとんど僧侶は一人で葬儀をする。東京辺りでは当たり前かもしませんけれども、そのような状況になつております。

す。

そしてもう一つ、最も深刻なのはお寺の存続の問題、それは、後継ぎの問題であります。お寺の子どもたちがお寺を継ぐのを拒否するということが起つて後継者がなくなるということがざいます。たまたま私は息子がおりますが、私が同朋会運動に関わって、聞法会を始め、いろいろなことに携わつてきましたということがあります。また、私の所は岐阜県の西方で、美濃^{みの}地方ですけれども、これまでご法事は五十回忌まで皆さん勤められていましたが、今そこまでされるところは少なくなりました。五十回忌を過ぎますと、私のところではこれを「取り上げ」といいます。「何か暗くて嫌だな」という感覚になつていいか。「お寺を継ぐの嫌だな」と、お寺に生

またことが重荷になることもあるかと思います。お寺にいる者が魅力を持たない、これはものすごく大きな問題でないかと思います。全部とは言いませんが、そういう所が増えてきているということあります。そして優秀な子どもである程、東京などの都市部へ行つてしまつて帰つてこないということも起つてきています。お寺の存続がそこまで問われておるということあります。お寺の在り方というものをもう一回考えねばなりません。要するに現在の資本主義社会、経済社会というものに、対応できているかどうか。この場合の経済社会は、何もお金が儲かるとか、お金がたくさんあるという問題だけじゃございません。お金の動きは当然ありますけれど、貨幣経済が強くなる中でお寺の存在理由が失われていく、このことをどうしていくのかということを考えなければならぬ大きな問題であるということを改めて思います。

これから同朋会運動の方回性

そういうお寺の状況などの現実を踏まえ

て考えますと、これからどこを中心にして同朋会運動を進めていくかということは、一つ大きな問題であります。欲望全開の経済社会の中で、私たちはこれをノーとか、イエスとか言える状況ではないと思います。その中を生きなければならないのです。物質豊かな社会の反面、非常に不安な状況でもあります。

一昨年、ある会合で経済産業省の方のお話を聞いたことがあります。その時にその方がおっしゃつておりましたのは、もはや日本は最高潮の豊かな社会になつて、物質的にはプラチナ社会である、後は福祉をどうしていくのかという課題が残ると聞きました。これは当然少子高齢化、長寿社会というものを踏まえておっしゃつていたのだろうと思います。その翌年3月頃から、このコロナウイルスであります。商品経済社会というものは、実は非常に脆い。ものすごく豊かになつたけれども不安定で脆く、格差がどんどん開いていくのです。一度ドロップアウトすると居場所を失うというような状況です。こういう不安な社会に耐えていくような教化のあり方は、どうあるべきなのでしょうか。

先般『この国の息苦しさの正体』(和田秀樹・著)という本を読んでおりましたら、商

品経済社会の中で大変豊かになつたけれども、たいていの人が「今だけ、金だけ、自分だけ」という価値観に納まつてしまつて、非常に息苦しくなつたとありました。これは自己中心主義といつてもいいでしようし、私たちの教えの言葉でいうと「自力の執心」というものを、深く考えねばならないという課題であります。

そのような時の動きの中で同朋会運動を企画立案していくときに、まず今までの諸先輩がご苦労されてきた大事な事を無かつたものにするわけにはいきません。「あんた同朋会運動まだやつているの」というようなことを言つておるお寺さんがおられたことを聞きました。私はその方に聞きたいのです。

「あんた同朋会運動やつてきたのかね、始まつてもおらんのでないのかね」と。同朋会運動とは信仰の歩みであります。それを宗門は施策として同朋会運動を展開してきたわけです。それは日本の資本主義の歩みと同じように、上から下へという動きなのです。すなわち資本主義の状況でいいますと、日本は資本主義を自分たちで築き上げてきたのではありません。官僚中心主義型で上から下へ指示をし、下を活性化させてきたので

す。日本人は、自分たちで作り上げていくと、いうことがどうも苦手というか、そういう歴史をあまり持っていない。同朋会運動も中央主導型で地方で聞法している人たちを一度本山に吸い上げて、そして地方に帰つてもらって運動をしていくという、上から下へといふ施策、これが同朋会運動の動きだつたと思います。それが今、現状では、具体的に言いますと教区まで動いてきております。そしてよいよ組、地域を基盤にした運動に転換させねばならないようになつてきました。同朋会運動の第一次五カ年計画の時に出された施策は、その様な願いで、教区や組に教化委員会をつくるという動きであつたのだと思ひます。

そういう意味でもう一度、今度は下から上へと。今まで同朋会運動で培つてきたことをベースにしての「私から始める同朋会運動」という実践に立たねばならないのだと思ひます。しかし、「私」一人では何も力がございませんから、私と仲間が協力して教化のチームをつくり、地域の人々と共に聞法していく場を構築していくことが、これから非常に大事だと思います。

当然、欲望全開の世界であります。貨幣を

損得というものが常に私たちの頭の中にこびりついております。それゆえ、聞法をしていこうという歩みは、本当に困難で細々とした道でありましよう。しかし、その細々と続けていくことが大きな道になるのではないでしようか。

私たちが歩んでいる仏道は、すなわち求道心は、欲望全開の中では、消えかかった細い道です。しかし、その道を人々と共に、支え合しながら一步一歩、歩んでいく。そういう歩みを一番身近な人々としていく。そして、人と人とのつないでいく。そういう友をまず見つけ、友が人と人とを繋いで、そして場を開いていく。これが「同朋会運動」であると教えて頂いたことであります。「点から線、線から面へ」というものを、もう一回確認していくことが大事だと思うのであります。

学問的に言いますと「シンクレティズム」と言います。これは上と下、二重構造になります。これまで、下が旧で上が新です。昔からずっと伝えられ、育てられてきた身に付いているものは旧であります。ですから、古い人はほど古いものにこだわるということがあります。古いものが全部間違つていいわけではないのですけれども、古いものだけにこだわると、その上に重なつてくる新しい考え方を取り入れ、進歩していくことを失つてしまします。



同朋会議当日の
真宗会館での様子

一重の精神構造

そういう意味で、常に二重構造であつて、新しい時の流れを常に、今までの歩みとともに一度照らし合わせながら、どちらの方向に歩んでいくのがいいのかを考えなければなりません。このまま行きますと、貨幣絶対主義というものになつて、「今、だけ、金だけ、自分だけ」という時代へ向かつていつてしまいま

す。その中で一体、何を伝えていくのかを考えなければならないのではないかでしょうか。特に教化の面でいいますと「先祖」ということをどのように受け取つていくのか。これは国のその時の為政者のものの考え方が非常に強く影響しています。江戸・明治・戦中・戦後、そして高度経済成長・現在へと、ここで先祖觀というものが急速に変わつてきているということです。

今の私たちの世代、現在70歳以上の方々ですと、家父長制度上の「家・「先祖」という旧の考え方があると思います。家の中心がお父さんであって、その人が妻子眷属を持ち、それによって家族を統一していくという考え方です。

この背景には天皇制があります。このことを開いていきますと「同和」問題、「被差別部落」の問題とも繋がつてくるのです。過去の経験の中できてきただ人に比べて、次の新しい世代はそういうことをほとんど知らないでしよう。特に私の孫の世代になりますと、全くありません。私の息子でも、50歳代ですけれども、ものの考え方、先祖觀や家族觀というものが本当に変わつてきていると思います。要するに新と旧、特に新のほうは貨幣

経済を中心とした資本主義社会、欲望全開という型で動いてきまして、そして旧の方は旧の経験したことを固執していくものの考え方です。マイナス面だけを申しましたけれども、こういうことを一度きちんと見直して、プラス面にどう変えていくのか。これをノーというわけにはいきません。

これから推進員養成講座を進めていくにあたつて、講座終了後はどう聞法会を継続させていくのか、それから呼び掛ける世代をどのような世代にするのかとも考えなればなりません。

また、終わつてから例会をするならば、テキストに何を使うかということです。一人一人のお得意の話で進めると、必ず行き詰まってしまいます。テキストを通して学んでいく、そのテキストにどういうものを使っていくのか。同朋会運動の初めには『真宗の要旨』というものがございました。これを受けて『現代の聖典』。それ以後に『宗祖親鸞聖人』。それから『仏の名のもとに』等々、その後も多くテキストが出ております。

※ 「開申事件」・同朋会運動が推進されるなか、昭和44年4月、突如、「法主」は、従来兼務していた「本願寺住職」・「管長」の三職のうち、管長職だけを法嗣に譲ろうとした。それは、宗門を代表する内局と、それに対しても大谷家の特権により旧体制を保持しようとする一部の宗門人との間の軋轢に発展し、やがて「本願寺」を宗派から独立させようとするにいたつた出来事。(『真宗の教えと宗門の歩み』より参照)

私自身に言つております。皆さんはどうか分かりません。そこをもう一回確認することが大事ではないかなということを改めて思いました。

先ほどもお話ししました、欲望全開の経済中心社会 要するに資本主義社会ですが、その中で、ただ経済中心というだけではなく、第四次産業革命といわれる人工知能（A.I）とロボットの時代が来ているといわれています。

先日、愛知県刈谷市でトヨタ関係の大きな建物を作っているところを二門徒の運転して頂く車に乗つて通り過ぎました。その時

欲望全開の経済中心社会



『現代の聖典』『宗祖親鸞聖人』
『仮の名のもとに』

「林さん、この中はほとんど人がいないのですよ」と言われました。ほとんどがロボットとA.Iによってコントロールされていて、人間の居場所が奪われていくということです。もう働く場所まで奪われていくということが大きな問題となっています。その中に何が求められているのか、人間は何をしていかなければならぬのかということが、ひとつ大きな課題としてあると思います。経済中心社会のなかで、人間が消されていく这样一个ことが職場で起こっているということです。

その意味で、職場がこれから大きく変わつていきます。当然、職場は生活の中心になります。生きていく糧を得るところですから、大事な場所であろうと思います。その現場に於ける職業倫理は、一体どのように考えていいらよいのかということを思います。倫理観の欠乏した経済中心社会の中において、マックス・ウェーバー（19・20世紀ドイツの社会学者）に返すまでもなく、そういう問題が私たちに問われているのです。あまりにも倫理観が強いと、今度は閉塞された社会を作ってしまいます。その中で念佛の教えは何を伝えていこうとしているのか、何を伝えていく

のが大事なのかということまで考えていかなければなりません。

真宗同朋会運動は、実際にはもう1961（昭和36）年から始まっているのですが、翌年に議会で決められて施策として動き出しました。その中で、経済問題についての議論が欠落していたことが大きな問題ではなかったかと危惧しております。今、私たちの宗門は何によつて成り立つてゐるのかといふと、相続講制度、これによつて成り立て、その相続講制度も納骨と院号法名によつて成り立つてゐるといつたら言い過ぎであります。どういうものだつたのか。そのようなことを思うわけです。

そして、お寺で教化活動をすれば必ず出費で消費生活になるということです。だからお寺で教化活動をやればやるほど、儲からないという価値観に陥る。こういうことが大きな問題であろうと思うのです。ひょっとしたら私の独断かもしませんけれども、このコロナウイルスによつて仏事が簡素化されてしまうこと、逆に経済的には楽になつていくということを考えるようになつたら、もう绝望

的であるうとと思うのです。こんなことを考えねばならない状況でないかなということを思います。

また、江戸時代と明治時代と現代とで、家族の関係というものと先祖、これをどのように考えてきているのかということを考えねばならないと思います。特に、江戸時代は自分の主君について忠を尽くせばいいわけです。何も将軍様に尽くす必要はないのです。これは江戸時代です。明治時代になりますと、

万民が天皇を中心とした人間関係に変わつて、家庭の中では、戸主こしゅを中心とした関係になります。これは教育勅語などを読むとよくわかります。その戸主を中心とする、権力を与える、そのためには必要か。それが民法によつて決められてくるのです。明治の決め事であろうと思います。それが今急速に変わってきて、それぞれの家族観が変わつて、戸主を中心にするということはもうございません。ですから、一家族一家族がみな独立してきまして、もつと進みますと夫婦といえども個人中心主義になります。繋がりをどこにもつつか、そこに大きく関わつてくるのはまた貨幣の問題であります。

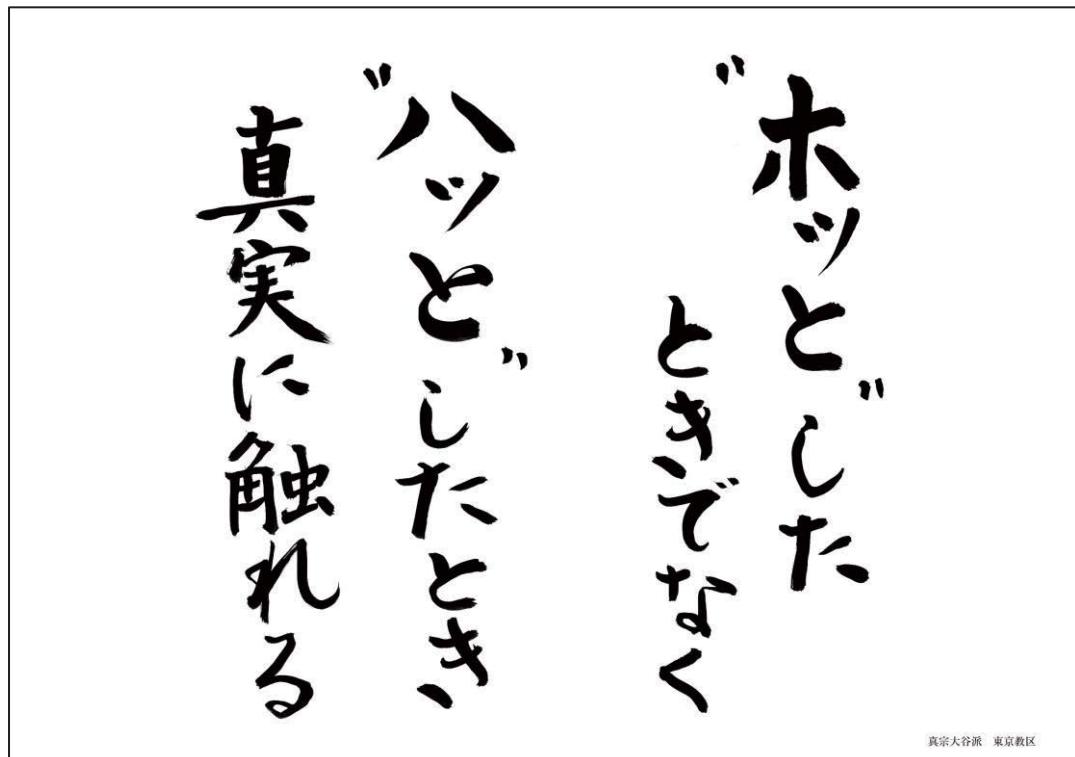
特に、明治からの戸主を中心とした物の考

え方を成り立たせ、戸主に権力を持たせる家族制度を背景として先祖代々があります。この「先祖」というものの位置づけが重要なにつきます。『先祖のはなし』(柳田國男・著)という有名な民俗学の本も出ておりますけれども、一度「先祖」ということも見直し、私たちの家族・共同体の過去・未来・現在を、これからどういう形でみていくかということは、教化計画の中で考えていかなければならぬ問題であると思います。

最後に、コロナウイルスの件です。大変深刻な問題として、今日もどんどん増えていくばかりですけれども、これを「止まれ」というチヤンスだと受けとつたらどうでしょうか。仏教には止觀行しがんぎょうというのがあります。止まつて觀る、觀察の觀です。これは比叡山延暦寺の摩訶止觀まかしがんの行であります。「止まれ、觀よ」と、その止まれという事を今コロナウイルスが私たちに言つていると、ウイルスに対する対策は十分注意しながら、積極的に受け取つてはいかがでしようか。止まるうと思つても止まれない、これがパンデミックという形になつてくるのだろうと思います。人間において「全てのものは生命体である」ということが欠落し、人間中心主義になつていない

か、問われているのです。その生命体はすべてを自己保存しようとして、その生命体を崩そうとするものに対して、必ず反逆をしてくる。地球という自然のいのちが、欲望全開で自然を壊していくこうとする人間の動きに警告を与えて、私たちに止まれ、止まれないならば見つめ直せと言つているのではないでしょうか。そしてそのため、私たちに仏法が伝承されている。仏法を頂くチャンスが今開かれているというように見たらどうでございましょうか。そのためにどのように仏法によつて見直すかとなりますと、今は各寺で集まつて、会合して学びの集いをするわけにいきませんから、コンピュータなどを使って、使えない人は使える人にお手伝い頂いて、そして自分たちを見直す。法話配信など、機器を使って学んでいくということが、これからは大事でないかと思うわけであります。時間がまいりましたので終わらせていただきます。時間がまいりましたので終わらせました。

今月の法語



書：佐藤 多仙

- ・頒布中「掲示伝道用ポスター」(A2 サイズ)
「掲示伝道ポスターミニ」(ポストカードサイズ)
- ・「掲示伝道用ポスター」が貼れる門徒宅用掲示板を無償設置いたします。
詳細は東京教務所まで。

NEW

「掲示伝道ポスター」

ミニ

ポストカード

2017年度 A・B (2種類)
2018年度 A・B (2種類)
2019年度 A・B (2種類)

■各100円
各6枚入
簡易スタンド付き
はがきサイズ
送料250円
(場合によって500円)

東京教区教化委員会広報出版部門では、毎年掲示板に掲示いただくための「掲示伝道用ポスター」を発行しております。

このたび、生活の中でより身近に言葉に触れていただけるように、
ポストカードサイズの「掲示伝道用ポスターミニ」を発行いたしました！

ご寺院での行事の際に、ご門徒への記念としていかがでしょうか？

お申込み：東京教務所 (TEL03-5393-0810/担当:海) まで

「門徒宅用伝道掲示板」設置の募集

東本願寺 掲示伝道

掲示板サイズ
高さ58cm 幅87cm 重さ約10kg

ご自宅の場所等をお貸しいただける
ご門徒を募集いたしますので、ご協
力賜りますようお願い申しあげます。

- ① 内容
東京教化委員会発行の法語ポス
ターや同朋大会等のポスターをス
タンドにてお届けします。
(掲示物は教区から送らせていただきます)
- ② 掲示板は無償で設置いたします。
(教区が全額負担)
- ③ お申し込み、お問い合わせは東
京教務所(担当・粟生)までご連
絡ください。

「目読」ではなく
「耳読」の味わいを

録音図書
聞いてらっしゃい

『阿弥陀経に聞く』連載中

暮らしにじーん 



児童教化連盟
じれん
参加者・スタッフ
募集!!



春の遠足・夏のキャンプ・子ども報恩講を開催しています
また、児童教化に関する研修会（年2回）も行っています
お子様のご参加、スタッフとしてのご参加をお待ちしています

 
詳しい活動は
←QR(facebook)をご覧ください

お問合せは児連事務局まで

[東京教区児童教化連盟 事務局]
〒130-0012
東京都墨田区太平2-7-1本明寺内
TEL 03-3623-1536
委員長 本田彰一（東京1組）
✉tokyojiren@gmail.com

教区報恩講企画会だより

教区報恩講企画会 実行委員 原知克（東京5組 成満寺門徒）

2022年

教区報恩講

テーマ「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねて」

2022年 教区報恩講 テーマ「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねて」

サブテーマ 「で、あいから問われて」



「で、あいから問われて」ということを教えていただき、これまでのリモート会議やオンライン法話では「見る」と「聴く」が中心の聞法だったと改めて知られた。

昨年の企画会は委員任期2年目でコロナ禍真っ只中からのスタート。真宗会館での会議

が出来なくなりリモート会議が中心となつたが、リモートになるとそのための機器類を準備しなければならないが、すぐにはできなかつた。家のパソコンは古いのでカメラやマイクはついていない。仕方なくスマホでやつてみたが、設定は難しいし繋がつても音声は途切れることは多かった。気が引いていき、やがて発言をしにくくなり、会議も楽しくなくなつていった。

8月26日に行われた第5回企画会で、これまで2年にわたって教区報恩講に出講いただいた海法龍先生のお話を伺い、私のなかで整理があつた。先生から「聞法は五感で聞く」

つた。毎月の真宗会館での会議後は、必ず練馬駅前で有志の一杯をやっていたからだ。一門徒として企画会で発言することは結構辛い。対等に話しが出来ない自分がそこにはあつて、会議中に考えあぐねている内に別の話になり、気持ちがわだかまつたまま会議は終了する。私にとっての「駅前」は、その「わだかまり」を雑談から入つて口をなめらかに、脳味噌も少し痺れさせて今日の不完全燃焼を反芻する。不安の種の中から確認したいものと忘れていいものとを飲み込みながら潰す。企画会メンバーとの朋友関係を再確認して次回にわだかまりを残さない。そんな場だつたのだが、それが出来なくなつてしまつた。

もう一つ楽しい事があった。それは教区報恩講で担当した接待所。法要の合間の時間に参詣の門徒さん方がお汁粉や甘酒を飲みにきてくださつた。お互い笑顔でお話ができる、お祭りの縁日みたいだつた。お汁粉や甘酒の仕込みをしながら接待担当同士の気心もどんどんと知れていく。

この二つに海先生の言われた「五感」がはまつたのかもしれない。お堂のお香の匂い。莊嚴のたたずまい。隣に座つた方の息遣い。その場の丸ごとを感じながらお話を聴いた。

私の聞法活動は10余年前のあの日から始まつた。法話や座談や一次会のルーティーン。「でいい」の場を通して教えが浸みこんでいく時間を戴いた。コロナ禍前後での企画会も経験し、先述した第5回の企画会で海先生の「真宗じやなきやだめなんだ!」という言葉をお聞きした時に「俺は単に一杯飲みたいだけの奴だったんだ」という自分自身が見えた。真宗つて隠れていた自分に穴を開けて風を通す教えたかったのか!真宗に言い当てられ、自分の中身が顔を出して、がっくりきたけど落ち着いたらさばさばしてきている。

この3年間、教区報恩講企画会では、テーマに「でいい・でいい」を掲げ続けてきた。

一昨年のテーマ「人にでいい 教えにでいい 自分にでいい」、昨年のテーマ「今、でいい」、そして今回のテーマ「でいいから問われて」がじわっと毛穴から入って、ようやく私として「自分でいい何だろうか?」という問い合わせに、いま、であわせていただいている。

東京教区報恩講（オンライン）

2022年1月28日（金）

13時30分（一座法要）

教区報恩講は、例年1月26日の帰敬式、27日、28日の一昼夜にて厳修してまいりました。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い、昨年度同様にオンラインにて厳修することが決定いたしました。

法話には、海法龍氏（三浦組 長願寺）を講師としてお招きし、東本願寺「真宗会館」よりYouTubeライブ配信をいたします。

お寺に集まつて

東京教区報恩講を一緒にお勤めしませんか

右記の通り、来年の東京教区報恩講は「YouTubeライブ」による配信を行います。オンライン配信ということで、どこからでも東京教区報恩講にお参りすることができます。しかしながら、パソコンやスマホ、タブレットをお持ちでない方、また不慣れな方は参加する事が難しいこともあります。

そこでお寺などを会場として集まつていただき、スクリーンやテレビなどのモニターに映像を映して、皆さんと一緒に東京教区報恩講をお勤めしてはいかがでしょうか。これまで東京教区報恩講に参詣できなかつた方が参加できるチャンスですし、また法話終了後に座談会や茶話会を行つてもいいかもしません。どうぞ皆さんの発想で新しい取り組みが生まれることを願っています。※お寺などに集まる場合は、お手次の寺院・教会の住職と相談の上「3密」を避け、感染拡大防止への取り組みをお願い致します。

聖典学習会 「正信偈」に学ぶ

講師：一樂 真 氏（大谷大学教授）

道綽決聖道難証

万善自力貶勤修

三不三信誨慇懃

一生造惡值弘誓

唯明淨土可通入

円満德号勸專称

像末法滅同悲引

至安養界証妙果

■三不三信の誨、おしえ 慇懃おんこんにして、像末法滅、 同じく悲引す

（書き下し文）

道綽、聖道の証しがたきことを決して、
ただ淨土の通入すべきことを明かす。

万善の自力、勤修を貶す。
円満の徳号、専称を勧む。

三不三信の誨、
像末法滅、同じく悲引す。

一生悪を造れども、弘誓に値いねれば、
安養界に至りて妙果を証せしむと、いえり。

「殷懃にして」とはねんごろということです。大変丁寧に教えて下さったということです。そして「像末法滅、同じく悲引す」と言

われ、注意して見ますと「殷懃にして」と後に繋がっています。「三不三信の誨、殷懃なり」ではないのです。切れていません。「三不三信

の誨、殷懃にして、像末法滅、同じく悲引す」と。「殷懃」と書いてありますけれども『安樂集』を見ても懇切丁寧に書いて下さつたとはとても見えないです。

聖教全書一巻の四〇五頁に「三不三信の誨」と出てまいります。ほんの僅かでありますが三不信のことを挙げています。

復三種の不相應有り、一には信心淳からず、存せるが若し亡ぜるが若きの故に。二には信心一ならず、謂く決定無きが故心であるならば、それは淳心です」という形

に。三には信心相續せず、謂く餘念間つるが故に。ここまでは『論註』と同じです。ですから『論註』に言われている三種の不相應をここに三不信として挙げられた。その後、これが曇鸞の言い方と変わって、今度は三信を述べています。

迭たがい 相しゆう に 收しゅう 摄しゃく す。

となっています。これは「迭」という、日頃なかなか使わない字です。↓中略↓「相たがいに」という意味です。かわるがわるそういうふている。

三不信は「信心淳あからざるから、信心一ならず。一ならざるから相続しない。相続しないから一ならず。一ならないから淳からず」と、全部がお互いに支え合っている。お互いがそういうことを増長していくわけです。でも、ここでは三不信の言い方ではなく、いきなりここから三信の話にしているのです。

若し能くも相續すれば則ち是一心なり。但能く一心なれば即是淳心なり。

と。曇鸞は三不信がお互いにかわるがわる支え合っていくと言っていたのを、ここでは「もし相続するならばこれは一心です。そして一心であるならば、それは淳心です」という形

でお互いに収め合っている。ここが三不信の肯定的な言い方ですね。曇鸞が三不信という否定的な言い方で言っていたものを、こちらは肯定的な言い方で三信と言つた。そしてその後に続きます。

此の三心を具して若し生れずといはば是の處り有ること無けん。

という言葉です。ここで「三不三信の誨」は終わっていまして、次の行からは「第三天門」という別の章に入つていきます。だから本当に短いでしょう。三信について言つたのは「迭相に收攝す」と言つた後の「若し能く相續すれば則ち是一心なり。但能く一心なれば即是淳心なり。此の三心を具して若し生れずといはば是の處り有ること無けん」と、たったこれだけです。これだけが「三不三信の誨」の直接的な部分なのです。

これを親鸞聖人は「三不三信の誨、懸勵にして」と言つておられるわけです。だから、「正信偈」の元を尋ねたいと思つて『安樂集』を開くと、大体肩透かしにあう。詳しく知るうと思って『安樂集』を読もうと思ったら、「あれ、これだけか」となる。ある意味で否定的に言つたのを肯定的に言つただけです。それならば何故「懸勵」と言えるのか。

この「是の處り有ること無し」という言葉は、私たちが日頃使う字ではないです。こことわりと言つたら、理論の「理」の方を書きます。道理の理。でも理屈として通らないという意味ではなく、「無有是處」とは「こういうことはありえない」という経典の常套句なのです。～中略～

もうひとつ、これが今日の「正信偈」に関する所ですが、「三不三信の誨、懸勵にして」の後に「像末法滅、同じく悲引す」と続いています。これは道縛が生きた時代の話です。まさに像法という時代、末法に入つていくという時代の中、仏法が分からなくなつていく。(中略)その時に、ここで助かるということ。修行出来たか出来ないかも超えていきます。これが『觀經』の「下品下生」の救いに着目せざるをえないのです。

ですから、ここでは「像末法滅、同じく悲引す」という言葉に繋がっていますが、像法あるいは末法、さらには法滅でしよう。実際何度も厳しい廢仏に遭いまして、還俗させられたり、お寺が壊されたり、經典が焼かれたりという目にも道綽は遭つていて。仏法が地を掃つような、失われてしまうようなことをぐつている。その中で悠長に修行するとい

うわけにはいかない。分らなくともやつていれば、そのうち助かるかもしれないということを期待するわけにはいかない。仏法が消えて無くなるような、そこまで見越して、その時代を生きている者も助け遂げるのだという。同じように迷いを超えさせる教えがあるのだ。これが「三不三信の誨、懸勵にして」という言葉から繋がっています。

「三不三信の誨」の述べ方が丁寧だということではなく、「此の三心を具して若し生れずといはば是の處り有ること無けん」と、この三心を具する所に一人残らず迷いを超えていくことが出来ると言いつけて下さつてゐる。これが「懸勵」と言われる意味なのです。

(文責 研修部門)

今後の聖典学習会の日程

2021年

12月13日（月） 9時30分～16時30分

2022年

2月15日（火） 13時～17時

4月11日（月） 13時～17時

6月6日（月） 13時～17時

※お申込み・お問い合わせについては、東京教務所（担当：渡邊楽）まで

私が出遇つた言葉

湘南組 長徳寺 内藤 望



他人に貰つたものは役に立たない

先日、今更ながら『鬼滅の刃』を全巻購入した。敵との戦いだけではなく、それぞれの背景の描写もありとても面白く読むことができた。その中で印象に残つた一つが「人の想いは永遠だ」という言葉である。

今回は緑陰研修ということで、『歎異抄』ではなく西田先生の著作から『中道』誌事件――言語表現の差別性はどこで生まれるか――と「信仰の問題としての天皇制―歎異抄の深層の『誓願不思議の信心』と『名号不思議の信心』の差異の問題として」の二つをテキストとして講義をいただいた。『中道』誌事件を取り上げたのは、こういうことがあつたという想いから、信仰の問題としての天皇制は今後学ぶ上での刺激になればとの想いから

であった。その講義の中で私が特に印象に残っているのは、最後に西田先生が語られた想いである。「寺に生まれたから真宗を学んでおるのか、寺を出て関係なくなつても根源の思想として真宗を選ぶのかどうか考えてみなさい」とおっしゃられた。寺と関係なくなつても自分の心にとつて必要なものなのか――と「己の真宗で死ねるか」ということであり、そして「真宗というのは親鸞や唯円よりももっと広い世界」という中で、自分につかみ取つていかなければならぬ。「他人に貰つたものは助けにはなるかもしれないが役に立たない、自分で掴まなければならぬのだ」という熱い想いをお話しきださつた。

とても強く頭を叩かれたおもいである。この熱い想いに応えていかなければならぬと感じたと同時に、この想いを伝えていかなければならぬとも思った。そして西田先生もそんな想いに出遇い、いただいてこられたのだと感じた。その想いが繋がり永遠となつていくのだと思う。「連続無窮にして休息あることなし」である。

教学館に学べて良かつたことは西田先生に出会えたことだと、緑陰研修を終えてつくづくと感じている。今後の歩みとして「己の真宗」を求めていきたい。

第26回 教学館月例研修会(オンライン開催)
基調講義：『中道』誌事件
2021年9月15日～16日

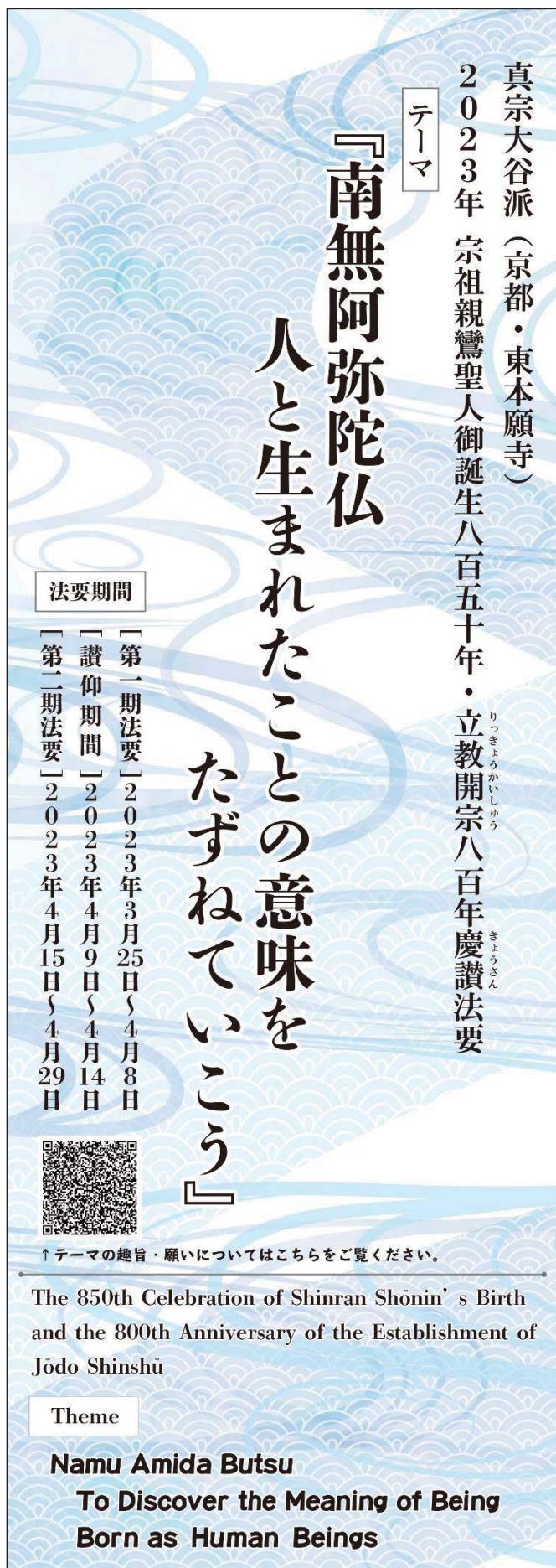
・言語表現の差別性はどこで生まれるか
・信仰の問題としての天皇制

・歎異抄の深層の『誓願不思議の信心』と『名号不思議の信心』の差異の問題として

西田 真因 氏(元教学研究所所長)

特別講義：なし

「慶讚法要・慶讚テーマ」のポスターが
東京教区ホームページ「暮らしにじいーん」から
ダウンロードできます!!



東京教区で作成しました「慶讚法要・慶讚テーマ」のポスターが東京教区ホームページ「暮らしにじいーん」からダウンロードできます。ダウントロードしていただければ、ご寺院、ご自宅のプリンターでお好みのサイズに印刷できます。縦長サイズでので、掲示板のちょっとしたスペースに掲示いただくなど、ぜひご活用ください。

はい！こちら 真宗会館 です

駐在日記

最近読んだ本

「米軍が見た東京 1945秋 終わりの風景、はじまりの風景」

佐藤洋一著

滋賀県湖東地方に西明寺、金剛輪寺、百濟寺の三つの天台宗寺院がある。室町時代には、敏満寺、大覚寺と合わせて湖東五山として栄えたが、応仁の乱や織田信長の焼き討ちによって衰退し、敏満寺を除いて江戸時代以降それぞれ復興したが、現在は西明寺・金剛輪寺・百濟寺だけが湖東三山と称されるようになった。飛鳥時代、606（推古14）年に聖徳太子の勅願によって開かれたという釈迦山百濟寺は「くだらじ」ではなく「ひゃくさいじ」と読む。本尊は十一面觀世音菩薩。脇侍に聖觀音坐像、如意輪觀音半跏思惟像。厨子には阿弥陀如来坐像、金銅弥勒半跏思惟像が安置されている。十一面觀世音菩薩は半世紀に一度の御開帳で2006（平成18）年に天台宗開宗1200年記念に湖東三山一斎御開帳があり、その後、特例として2014（平成26）年には湖東三山IC開設記念の御開帳があった。私はどちらの機会でも拝見出来なかった



東京教区駐在教導

渡邊 誠

のでこれからの生涯のうち、見ることは叶わないであろう。

さて、三重県の自坊から京都へ自動車で行く時は国道421号線で石榑トンネルを抜け滋賀県に入る。宇賀渓や愛知川渓谷の紅葉は今の季節、訪れる人を楽しませてくれる。狭隘区間が所々あり、10t以上もある大型トラーラーとすれ違う時は景観どころではない。そして永源寺ダムを過ぎれば程なく八日市ICに入り、名神高速道路上り車線に乗れば京都は近い。八日市ICの手前にある国道307号線を右折し、途中県道を北に行けば先ほどの百濟寺に辿り着くことが出来るはずだ。

聖徳太子1400回忌の本年、新型コロナウィルスの感染拡大がある程度落ちつけば一度、西明寺、金剛輪寺と共に訪れてみたい。そして宗祖親鸞聖人が「和國の教主」と仰いだ聖徳太子ゆかりの地を巡る旅も計画してみたいと思っている。

はい！こちら 真宗会館 です



首都圏教化推進本部

法務員

小松 宏耀



担当：ご葬儀、ご法事、真宗会館内での法要
好きなアーティスト：B'z ONE OK ROCK

今年の3月に京都の大谷大学を卒業し、4月から法務員として働き始めて早半年が経ちました。真宗会館に来てからの半年間は本当に一瞬で、いつまでも新人ではいられないなということを常々感じております。

私が着任する前から、新型コロナウイルスの感染拡大によって世の中が大きく変わりました。コロナ禍によって、今まで当たり前のようにしてきたことは極めて有り難いことであったと思い知らされております。年忌法要やご葬儀においても、親戚一同が集まるのも難しくなってしまいました。

真宗会館では、Zoomを介したオンライン

ライン法要が行われております。コロナ禍によって人と集まることが難しくなったために導入されたシステムです。私も何度か経験させていただきましたが、一人一人が工夫することの大切さに気付かされました。コロナの感染拡大は私たちの日常から多くのことを奪ったかもしれません。しかし、コロナ禍によって気付かされたことも多いと思います。

厳しい状況が続くかもしれませんのが、私たち一人一人が工夫して、首都圏の聞法の場である真宗会館を守っていければと思います。

教区の情報をあなたに あなたの声を教区に!!

一緒にネットワーク9を作りませんか？

編集員募集中!!

Network 9

東京教区教化委員会報 ネットワークナイン

取材、原稿執筆、校正、デザインなど、紙面作りに関するすべてを行います。お寺の新聞やチラシを作る時のスキルも学べるかもしれません。パソコン初心者の方でも大歓迎です。先輩編集員が丁寧にご指導します。一緒に楽しいネットワーク9を作っていきましょう。

興味がある方、お問合せは東京教務所（担当：佐々木）まで

〒177-0032 東京都練馬区谷原1-3-7 東本願寺真宗会館内 東京教務所
【電話】(03)5393-0810 【ファックス】(03)5393-0814
【mail】nw9@ji-n.net



スマホやパソコンでぜひアクセスを！東京教区のホームページ

暮らしに
じいーん



www.ji-n.net

検索 暮らしにじいーん

お寺をもっと身边に

多彩なコンテンツ

じいーん散歩 **New**
しんらんさまめぐり
法話／行事・講座
なるほど仏事作法
寺院検索

他

うちのお寺も載ってる！



スタッフ募集

パソコン技術は不要です

ホームページ班のメンバーは僧侶に限らず、月に約1回のペースで集い、アイデアを出し合ったり、時には現地取材もしています。

ぜひ一緒に活動しませんか？（お問合せは教務所/立野まで）

敬弔

大山 松江 様

茨城2組 阿彌陀寺 前坊守

9月13日命終 99歳

久萬壽順 様

東京2組 林光寺 前坊守

9月14日命終 98歳

生前のご功労を偲び、
念仏合掌して哀悼の意を表します。

9月末日届出迄

涌 編集員の隨筆



コロナ禍になつてから外出する機会がめつきり減つた。正直に言うと真宗会館にはもう1年半以上お伺いしていない。『ネットワーク

今改めて思う。

9』の編集作業も全てオンラインで行なつてある。元々パソコンを使った作業が主であつたので、オンライン化への移行は比較的スムーズであつたようだ。オンラインで作業する上での一番のメリットは、何といつても

私は下戸なので車で現地に向かい、近くのコンパーキングに停め、2時間かそこらで店を出た。パーキングの料金欄には3千数百円という金額が表示されていたようだ。時間あたり1500円以上という計算になる。

身体を現地へ運ばなくてよいことである。私の地元・茨城から東京練馬の真宗会館までの地元・茨城から東京練馬の真宗会館まで、車でおよそ1時間と少しかかる。往復すればそれだけで3時間である。その移動にかかる時間が削減できることは大変大きなメリットといえる。

「やっぱり東京は高いですね…茨城の地元だと、駅のすぐそばでさえ300円ですよ…」「えつ。駅のすぐそばで1時間300円なんて、すごく安いですね！」

「いえ…1日300円です」

ちなみに恰好をつけて「地元の駅」などといふやうな「余」の時間が情緒面での益をもたらし、関係性の構築や作業の円滑化に貢献していたことも否定できないのではないかと、

(茨城1組 一乗寺 田上翼)